



大分港開港50周年記念事業

みなとフェスOITA

大分港 国際貿易港になって50年！

2015.10.31(土) 11.1(日)

大分港は2015年、関税法に基づく開港に指定されてから50年を迎えた。節目の年に、これまでの発展に貢献してきた立地企業や地場企業、航路事業者等に感謝するとともに、アジアのゲートウェイとしての大分港の更なる発展に向けて「大分港開港50周年記念事業」が盛大に開催された。

大分港が開港に指定されて以降、立地するコンビナート企業や地場企業が一体となり大分県は目覚ましい発展を遂げ、大分市の人口はこの50年で倍となり、街並みも一変した。



「海王丸」の一般公開の様子。



疋田社長による開会宣言

現在、大分港は全国有数の重要港湾となり、日本を代表する企業群が立地する大分コンビナートは、県内の製造品出荷額の約半分を生産し、多数の雇用も担い、大分県の経済を支えている。

今、あらためて大分港と関係企業について多くの子供たちに知ってもらい、大分港の更なる発展と大分県を支えるものづくり産業の更なる振興に繋げるため、みなとフェスが開催され、大在会場（メインイベント・大在公共埠頭）では、二日間で約29,000人の来場者が訪れた。

来場者に、海や港、さらには工場やものづくり産業に親しんでもらうため、帆船「海王丸」の一般公開（セイルドリル、艦内見学会等）、飲食、展示、ステージイベント、大分港関係企業・国機関等PRブース、大分港の歴史を振り返る写真展、防災・防衛フェア、海上保安庁による巡視艇展示等で会場は賑わいを見せた。

大在コンテナターミナルをはじめ工場の見学バスツアーも大好評で、たくさんの方々に体験していただいた。次の75周年に向け、きちんと舵取りをしながら着実に一歩ずつ歩を進めていきたい。





2015.10.29

「海王丸」の歓迎・入港式典の様子。主催者を代表して、大分港開港50周年記念事業実行委員長の疋田社長より挨拶が行われ、花束の贈呈や県警音楽隊による演奏などが行われた。



「海王丸」の夜間イルミネーション点灯の様子。期間中、多数の観覧者が訪れた。



2015.11.2

「海王丸」登檣礼（とうしょうらい）の様子。登檣礼とは、舳先やヤードに人員を配して行う帆船で最高の礼のこと。実習生が、脱帽し「ごきげんよう！」と発声する姿は、圧巻。「海王丸」は、汽笛を鳴らしながら大分港を後にした。

